

平成 19 年（2007 年）の関東・中部地方及び 伊豆・小笠原諸島の火山活動

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

各火山の 2007 年の活動概況

那須岳

火山活動に特段の変化の変化はなく、静穏に経過しました。

草津白根山

火山活動に特段の変化の変化はなく、静穏に経過しました。

浅間山

火山活動に特段の変化の変化はなく、静穏に経過しました。

新潟焼山

火山活動に特段の変化の変化はなく、静穏に経過しました。

焼岳

火山活動に特段の変化の変化はなく、静穏に経過しました。

御嶽山

2006 年 12 月（期間外）以降、火山性地震は消長を繰り返しながらやや多い状態が続き、火山性微動も時々観測されました。また、GPS による地殻変動観測では御嶽山の地下の膨張を示すわずかな伸びの変化も見られていました。5 月に行った現地調査では、3 月にごく小規模な噴火が発生したと考えられる火山灰を確認しました。

4 月以降は火山性地震及び火山性微動ともに少ない状態となり、GPS の伸びの変化もほぼ停止するなど、静穏な状況で経過しました。

白山

火山活動に特段の変化の変化はなく、静穏に経過しました。

富士山

火山活動に特段の変化の変化はなく、静穏に経過しました。

この資料は、気象庁地震火山部火山監視・情報センターが 1 年間の火山活動状況について取りまとめた資料で、毎年 1 月に公表しています。資料は気象庁ホームページ（<http://www.jma.go.jp>）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所、国土交通省金沢河川国道事務所、国土地理院、海上保安庁、第三管区海上保安本部、海上自衛隊、東北大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、独立行政法人産業技術総合研究所、独立行政法人防災科学技術研究所、東京都、長野県、岐阜県、新潟県及び神奈川県温泉地学研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

箱根山

火山活動に特段の変化の変化はなく、静穏に経過しました。

伊豆東部火山群

火山活動に特段の変化の変化はなく、静穏に経過しました。

伊豆大島

地下深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な島全体の膨張傾向が継続していますが、火山活動に特段の変化はなく静穏に経過しました。

三宅島

多量の火山ガス放出が続いており、風下にあたる地区では引き続き火山ガスに警戒が必要です。また、雨による泥流にも注意が必要です。

八丈島

火山活動に特段の変化の変化はなく、静穏に経過しました。

硫黄島

国土地理院及び防災科学技術研究所の観測によると、島内の地震活動は、1月に低下したもののその後も一時的な増加を繰り返すなどやや活発な状態で経過していましたが、11月に入り落ち着いた状態となっています。2006年8月以降見られていた島全体が大きく隆起する地殻変動は、1月及び11月頃に鈍化したものの継続しています。

硫黄島の火山名の呼称を平成 19 年 11 月 22 日(木)より「いおうじま(Iojima)」から「いおうとう(Ioto)」に変更しました。

福徳岡ノ場

海上保安庁、第三管区海上保安本部および海上自衛隊が行った観測で、付近の海面に火山活動によると考えられる変色水が確認されました。

上記以外の活火山については、火山活動に特段の変化の変化はなく、静穏に経過しました。